

令和元年度第3回岡崎市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和元年10月4日（金）14：00～15：40

場 所：岡崎市東庁舎2階大会議室

出席委員：10名

大岩みちの（会長）、笠井奈緒美、城殿泉、花田直樹、荒河昌吾、
猪飼由美子、加藤雄一郎、平野敏雄、稲垣ちえみ、中西恵美

欠席委員：5名

石川基司、安藤徹也、長坂尚希、古田学、東海林美由紀

傍聴者：2名

- 1 子ども・子育て会議委員委嘱状交付
- 2 開会
- 3 副市長あいさつ
- 4 委員自己紹介
- 5 議題
 - (1) 岡崎市子ども・子育て会議について
 - (2) 会長の選任について
 - (3) 第2期おかざきっ子 育ちプランの計画案について
- 6 その他
- 7 閉会

《主な質疑、意見など》

議題1 岡崎市子ども・子育て会議について

事務局から資料により説明
(質疑なし)

議題2 会長の選任について

会長は互選により決定。大岩委員を推薦する意見あり。
→委員全員の承認を受け、大岩委員の会長就任を決定。

議題3 第2期おかざきっ子 育ちプランの計画案について

事務局から資料により説明

委員： 24ページに放課後児童健全育成事業の進捗率が87%と記載があり、待機児童が生じているという説明がありましたが、何が原因だとお考えですか。

事務局： 進捗率87%というのは、事業が進んでいないということではなく、第1期計画中に計画値を変更したことによるものです。これまで第1期計画に基づき整備してきましたが、整備をすることで更に潜在的な利用ニーズが喚起されてしまうという状況があります。どこで頭打ちとなるか分かりませんが、実際の利用ニーズを見ながら、必要に応じて計画を変更するなど対応していかざるを得ないと考えています。

会長： 放課後児童健全育成事業については、前回も、質と量の確保について議論になっておりました。いろいろなことを同時に進行していく中で、優先順位を付け、なるべく子どもに負担がかからないように進めていただければと思います。

委員： 71ページに母親の健康に関して記載がありますが、以前、高齢出産の方がどこに相談したら良いか分からないと悩んでいらっしゃいました。計画の中でなくていいので、相談窓口について、分かりやすく周知していただけると良いと思います。

事務局： 保健所が母親の健康に関しては妊娠・出産・子育て期の相談窓口となり、保健師が時期に合わせて支援させていただいております。窓口としてどのような周知ができるかについては、検討していきたいと思っております。

委員： 産後うつが重なったり、御両親が遠方にいらっしゃったり、どうしたらいいか分からず不安になっていらっしゃったので、よろしく願います。

委員： 産院でお話をさせていただく機会があるのですが、これから親になる御両親は子どもについての話を真剣に聞かれています。これまでの説明を聞

いていると父親の影が薄く感じますが、なにか父親に関する取組はありますか。産後うつも、御両親の手が借りられない場合に、一番頼りになるのは父親かと思います。妊産婦へのアプローチに、お父さんになる方も参加する機会が得られるよう願っております。

事務局： 父親の育児参加については、基本施策5「仕事と家庭の両立支援の推進」推進施策（1）ワーク・ライフ・バランスの実現に記載があり、男女共同参画課において父親の育児参加や家事参加を促す取組を行っています。また、総合子育て支援センターでは「パパのためのひろば」を行っており、父親の育児参加を促すための取組を積極的に進めていきたいと考えております。

委員： 仕事でなかなか子育てに参加できないというお父さんの声を聞きます。行政が企業を巻き込むような取組があると良いと思います。

事務局： 愛知県では、仕事と生活の両立を図る職場環境づくりに取り組む企業を登録し紹介するファミリー・フレンドリー企業という制度があります。また、市においては、市から中小企業へアドバイザーを派遣し、女性活躍やワーク・ライフ・バランスの推進等に取り組もうとする市内事業者を支援しています。

委員： 94ページに子どもの貧困対策の推進に関する記載がありますが、学校の現場においても経済格差の広がりを感じないわけではありません。朝ごはんを食べてこない生徒もいます。市内の子ども食堂の状況はどうか。

事務局： 現在市内で把握しておりますのが、常磐学区に十楽こども食堂、六名学区にココカラ、緑丘学区においでん家、井田学区にこども食堂おかざき、羽根学区にえほんしょくどうどうぞの店、根石学区に友愛みんなの食堂と、計6事業所です。大体月1～2回開催されています。また、岡崎女子大学の学生が9月から11月まで丘の上のこども食堂を開催しています。

委員： 月に何回か決められた日に食堂に食べにおいでということですね。

会長： 毎日開催できれば良いですが、人材不足でなかなか難しいようです。学生がボランティアとして地域に貢献しようと立ち上がったのも、そういった課題があるためです。

事務局： 今後、行政がどのような形で協力していくかについては、現在検討しているところです。

閉会（15:40）